

(1) 目標として設定した項目	取組の結果〔昨年度数値〕
1 学校経営・組織体制 ① 学校経営計画に基づき、各教職員が自身の役割や目標達成のための具体的な手立てを自己申告書に記載し、校長面接等を通じて共有する。 ② 分掌主任や事業担当者が的確に進行管理を行い、業務を効率的に遂行する。 ③ 学校評価や授業評価などを活用し、的確に現状と課題を把握するとともに、学校運営の一層の改善を推進する。 ④ 学校経営計画の目標の達成に向けた各分掌等の評価を年3回実施し、現状と課題、達成状況等について学校運営連絡協議会などで報告する。また、学校運営連絡協議会の協議委員による提言や助言を、学校改善に活用していく。 【学校評価：協議員の評価100%〔62.5%〕】 【学校評価：入学満足度(生徒)90%〔85.3%〕】 ⑤ センター契約率を高めることで、効率的な予算執行を行う。また学事、徴収事務の定期的な点検・確認(執行状況の報告月1回)を実施する。 【契約集約率60%〔44.0%〕】 ⑥ 年3回の服務事故防止研修や業務点検等を行うことにより、個人情報の管理や体罰等の防止対策など、職員のコンプライアンスに係る意識を啓発する。また、校内における服務の厳正を図り、服務事故防止を徹底する。 ⑦ 「進学指導特別推進校」として、質の高い授業を創造するとともに、高い進路志望を実現する。 ⑧ 「東京都国際交流リーディング校」「海外学校間交流推進校」として、海外語学研修、長期短期の留学生の受入、次世代リーダー育成道場を活用した留学派遣、外国の学校との交流等を推進することでグローバル人材を育成する。 ⑨ 「理数研究校」として、企業や大学等と連携して理数に興味・関心をもつ生徒の裾野を広げる。 ⑩ 「英語教育推進校」として外部試験による生徒の4技能別英語力を把握し、オンライン英会話やJET、ALTを活用するなど指導方法を改善する。また、全校生徒の60%以上に、実用英語技能検定準2級相当の英語力を身に付けさせる。 ⑪ 「DXハイスクール」東京都特別メニュー実施校として適切に事業を展開し、「情報Ⅱ」選択者の増加に向けて検討を開始する。 ⑫ 未来型職員室への移行に伴い、教員間のコミュニケーションを活発化し、学年・分掌にとどまらない連携関係を強化した新たな働き方を推進する。	1 学校経営・組織体制 【A】 年間3回の自己申告面接を活用し、学校経営計画の進捗状況を書く教職員と管理職で共有してきた。また目標達成に向けた各分掌等の現状と課題について、様式を整備し、学校運営連絡協議会で年3回報告した。 学校評価アンケートの回収率は生徒83.7%〔85.7%〕保護者71.0%〔68.6%〕とほぼ前年度並みであった。Classiでの回収となつてからは、紙ベースに比べて回収率が低くなっているが、効率的な集約が可能になる点、自由意見が多く記述される点は大きなメリットであるため、今後もこの方法を継続していきたい。 学校評価における「入学満足度」の評価は生徒88.1%・保護者97.0%と高い数値となっている。さらに過去3年間の推移を見ると、生徒84.6%→85.3%→88.1%、保護者89.5%→93.7%→97.0%と順調に向上している。 学事、徴収事務の定期的な点検・確認(執行状況の報告月1回)を実施した。契約集約率は昨年度を上回り目標達成まであと一歩であった。 年間3回の服務事故防止研修を適正に実施したほか、調査書や指導要録については複数回の点検を実施し事故の防止に努めた。職員室のフリーアドレス化に伴いクリーンデスクは劇的に向上した。 「進学指導推進校」については進路指導の欄に詳述。「国際交流リーディング校」及び「海外学校間交流推進校」として、海外語学研修(アメリカ・サンディエゴ9日間)に46名が参加。次世代リーダー育成道場で1名が留学中。 「理数研究校」としてサイエンスカフェ、サイエンスツアー等を実施したほかパネル発表に参加した。 【数値実績】 ア 学校運営連絡協議会の協議委員の「学校が良くなった」という評価75%(6人/8人)〔62.5%〕 イ 学校評価アンケート保護者回収率71.0%〔68.6%〕 ウ 学校評価「入学満足度」の肯定的評価の割合 生徒88.1%〔85.3%〕、保護者97.0%〔93.7%〕 エ 1月あたりの超勤45時間超18.8人〔16.1人〕 男性職員の育児休業は2名が取得。 オ 契約集約率59.5%〔42.8%〕

⑬ <u>会議の時間を短縮するため、会議時間の上限を設定するとともに、ICTの効率的な活用に努め、紙資料を極力削減する。</u> ⑭ <u>テレワーク、時差勤務等の新たな働き方を推進するとともに、教職員の超過勤務削減と年休取得を促進し、男性職員の育児休業取得を奨励する。</u> 【1月あたりの超勤45時間超15人〔16.1人〕】																									
2 学習指導 ① ICTを活用し、アクティブ・ラーニングの手法などを取り入れた双方向授業をさらに推進し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 【学校評価：ICT活用授業(生徒)95%〔90.4%〕】 ② 教科を横断した課題の見える化に取り組む。また、課題(宿題)の履行状態と目標の達成状況を把握し、課題の精選と縮減を図る。さらに、必達、上位、挑戦の段階に分けるなど、個々の生徒の状況に応じた課題の選択的付与を行う。 ③ 全教職員(年3回程度)が協力して自習棟及び図書館を自学・自習の場として活用させ、学習する集団づくりを推進し、授業外の学習時間を確保し、自学自習の習慣を確立させる。 【自主学習時間の取組】 <table><tr><td></td><td>平日</td><td>休日</td></tr><tr><td>1年生</td><td>2時間 40%〔37%〕</td><td>4時間 30%〔26%〕</td></tr><tr><td>2年生</td><td>3時間 40%〔33%〕</td><td>5時間 30%〔26%〕</td></tr><tr><td>3年生</td><td>5時間 60%〔49%〕</td><td>6時間 80%〔79%〕</td></tr></table> ④ 教養教育を重視し、受験科目だけではなく、全教科・科目を満遍なく学習させる。 ⑤ 記述力・論述力を測る定期考査を実施するとともに、定期考査問題の共通化を推進する。 ⑥ 日々の教育活動において、統合型学習支援サービスを活用した教育活動に取り組むなど、オンラインの積極的活用・定着に取り組む。 ⑦ 多面的・多角的な評価に取り組み、ルーブリックに基づく、観点別学習評価を実践する。 【学校評価：評価基準の明示(生徒)90%〔88.1%〕】 ⑧ 生徒による授業評価(年2回)の結果等に基づき、授業改善に取り組む。 ⑨ 教員の相互授業参観(年3回以上)や他校の授業見学等などにより、教員の授業力向上を図る。 記述力・論述力を測る定期考査を実施するとともに、定期考査問題の共通化を進める。		平日	休日	1年生	2時間 40%〔37%〕	4時間 30%〔26%〕	2年生	3時間 40%〔33%〕	5時間 30%〔26%〕	3年生	5時間 60%〔49%〕	6時間 80%〔79%〕	2 学習指導 【B】 生徒による授業評価アンケートを年間2回、全生徒を対象に全科目で実施した。授業満足度の肯定的評価は76.3%と決して高いとは言えない数値である。特に2年生で72.0%と低く、文理選択を2年生で実施しないために、不満を持つ生徒が一定数いることが自由記述から推測される。しかし2年生までは全科目を履修させる教養教育は学校の理念でもあるため、その方針とメリットを周知していく必要がある。 授業力向上研修を年間3回実施。特に2回目では、5教科に加え保健体育も実施。東京都教職員研修センターの指導主事を全科目に派遣してもらい、充実した研修を実施することができた。 教科主任会を月1回開催し、また模擬試験の結果分析を各教科で実施した。目標達成状況はある程度共有されたが、課題の精選にはさらなる改善が必要である。講習等では上位層向けと中下位層向けの両方を設定することができた。 生徒の自主学習時間は昨年度劇的に増加した。それに比較すると1年生、2年生でやや後退したと言える。部活動、学校行事の活発化の影響もあるが、今後取り組み強化の必要がある。3年生は昨年と比べてもさらに増加しており、大学受験への意識付けに成功したといえる。 【数値実績】 ア ICTを活用した授業 生徒90.7%〔90.4%〕 保護者82.9%〔83.6%〕 イ 自主学習時間の取組み <table><tr><td></td><td>平日</td><td>休日</td></tr><tr><td>1年生</td><td>2時間 31%〔37%〕</td><td>4時間 13%〔26%〕</td></tr><tr><td>2年生</td><td>3時間 28%〔33%〕</td><td>5時間 17%〔26%〕</td></tr><tr><td>3年生</td><td>5時間 56%〔49%〕</td><td>6時間 81%〔79%〕</td></tr></table> ウ 評価基準の明示 生徒82.1%〔88.1%〕 保護者71.0%〔71.1%〕		平日	休日	1年生	2時間 31%〔37%〕	4時間 13%〔26%〕	2年生	3時間 28%〔33%〕	5時間 17%〔26%〕	3年生	5時間 56%〔49%〕	6時間 81%〔79%〕
	平日	休日																							
1年生	2時間 40%〔37%〕	4時間 30%〔26%〕																							
2年生	3時間 40%〔33%〕	5時間 30%〔26%〕																							
3年生	5時間 60%〔49%〕	6時間 80%〔79%〕																							
	平日	休日																							
1年生	2時間 31%〔37%〕	4時間 13%〔26%〕																							
2年生	3時間 28%〔33%〕	5時間 17%〔26%〕																							
3年生	5時間 56%〔49%〕	6時間 81%〔79%〕																							
3 進路指導 ① <u>データ分析に基づいた学習指導や進路指導により、学年分析会、模試分析会、出願検討会等を充実させ、高みを目指す進路指導を行う。</u>	3 進路指導 【A】 模試分析資料作成及び校内全体での情報共有、組織的な進路指導を経営方針の重点項目としている。昨年に引き続き、共通テスト自己採点データを用い																								

② 進路講話、進路相談、オープンキャンパス、東京都立大学等との高大連携事業等を計画的に実施する。 ③ 卒業学年の担任団、新3学年の担任団及び進路指導部で年度末に進路指導引継ぎ会を行う。 ④ 進路講演会、学年集会、二者面談・三者面談、出願検討会、授業等、あらゆる機会を捉えて、難関校に挑戦する高い志を抱くように支援する。 ⑤ 保護者会において、進路情報の提供を行い、保護者の受験に対する意識を高めるとともに、<u>保護者面談または三者面談を実施（各クラス年1回以上）</u>することにより、家庭の進路希望・学習状況を把握し、保護者と協力して、学習指導・進路指導を行う。 ⑥ 進路指導部、学年による「進路だより」を月1回以上発行し、生徒・保護者の啓発、情報提供を行う。 ⑦ 進路指導部・講習委員会が中心となり、土曜特進講習、夏の学校、春の学校、実力テスト（各学年）、朝・放課後の補習講習、土曜講習、夏冬春季講習、特別講習等の実施に向け、早期の計画の策定及び生徒への周知を行い、学習する集団を形成する。 ⑧ <u>各教科会で効果的な講習内容を検討し、3年間を見通した講習計画を構築する。</u> ⑨ 外部機関と連携した教員の指導向上及び生徒の学力向上に向けたきめ細やかな指導を行う。 ⑩ <u>安易に現状の学力に見合った進路を選択し、受験科目を減らすことのないよう全員で支援する。</u> 【共通テスト6教科8科目受験者120人〔93人〕】 【共通テスト総合得点率80%以上、受験者の5%以上〔4.3%〕】 【現役国公立大学合格者80名〔50名〕】 【早慶上理GMARCH現役合格者350名〔349名〕】	た出願指導検討会を全員悉皆で実施した。さらに今年度は模試結果データを各教科で分析したのち学年集会を開催、教科及び進路指導主任から今後に向けた指導を実施した。 東京都立大学との高大連携協定を再締結し、都立大副学長による講演、1学年全員による都立大学訪問等を実施した。また1学年対象の東京大学訪問では例年10名前後の参加者だったところ、67名が参加し本校卒業生でもある東大大学院教授による特別講演を聴講した。 保護者会、三者面談等を適正に実施し、進路情報の提供に努めた。特に保護者会では全ての学年に進路指導主任が出席し、保護者の意識啓発に努めた結果、国公立大学進学者が増加した。一方で、三者面談または保護者面談では保護者が面談希望を遠慮する実態が判明し、希望提出の方法を改善する必要がある。 国公立大学現役合格者は67名となり、平成21年度統計開始以来最高数値となった。 総合型選抜に関する個別指導の取り組みを今年度より開始、6名を対象としたが6名全員が希望校に合格することができた。 【数値実績】 ア 進路情報提供による第一志望支援 生徒87.9%〔90.3%〕保護者70.9%〔76.4%〕 イ 進路希望調査（10月）における国公立大または国公立大・私立大希望者の割合 1年87.2%〔82.4%〕2年60.2%〔64.8%〕 3年56.4%〔48.8%〕 ウ 大学入学共通テスト出願率97.7%〔94.3%〕 共通テストフル型受験者数128名〔93名〕 共通テストフル型出願率42.5%〔31.0%〕 総合得点率80%以上 受験者の5.5%〔4.3%〕 エ 現役国公立大学合格者67名〔52名〕 早慶上理現役合格者35名〔55名〕 GMARCH現役合格者数216名〔299名〕
4 生活指導 ① HR活動、学年集会や全校集会等を通じて、「規範意識や公共心を育成」「思いやりの心といじめを許さない雰囲気の醸成」「命の教育の推進」に取り組む。 ② 基本的生活習慣を確立させるとともに、「遅刻指導」「チャイム始業・チャイム終業」「挨拶の励行」を徹底する。また、交通ルールを守らせ、とくに登下校の際のマナー向上を図る。 ③ いじめのアンケートを年3回実施し、早期発見に努める。いじめが認知された場合には、学校サポートチームと連携し、対応に当たる。 【学校評価：いじめへの取り組み（生徒）90%〔88.3%〕】 ④ 人権意識を高め、被害者・加害者とならないよう指導する。また、「SNS家庭ルール」作成に向	4 生活指導 【B】 いじめアンケートは各学年3回実施した。学校評価アンケートにおける「いじめ防止に対する組織的な取組」の認知度は、生徒は高水準で昨年並みだが、保護者は「わからない」の回答数が多く、数値は低くなっている。周知が課題である。 校則の見直しについて検討。アンケートを生徒・保護者向けに実施し、次年度から頭髮規定の撤廃を決定した。 【数値実績】 ア 遅刻者数（各クラス1日平均） 1年0.31人〔0.22人〕2年0.71人〔0.65人〕 3年1.65人〔2.50人〕 イ 学校評価アンケートの肯定的評価の割合

けた保護者への啓発を行う。	・「いじめ防止に対する組織的な取組」 生徒 88.0% [89.1%] 保護者 49.7% [56.8%] ・「体罰・暴言のない指導」 生徒 92.4% [93.6%] 保護者 76.9% [76.9%] ・「安全指導・防災教育の適切な実施」 生徒 88.0% [86.0%] 保護者 70.3 [74.0%]
5 健康づくり等 ① コンディションレポートを導入、また登校時やホームルームにおいて、生徒の健康状態などの様子を観察し、日常的に声掛けを行う。 ② 学校における自殺予防教育を推進させるため、「SOSの出し方に関する教育」を推進する。 ③ スクールカウンセラーと連携し、特別な支援が必要な生徒に対する支援を行う。また、1学年を対象とした全員面接を7月までに実施する等教育相談を充実させる。 【学校評価：教育相談環境(生徒)90% [88.3%]】 ④ 発達障害のある生徒に対する支援方法について、東京都エリアネットワーク等を活用し、年間1回程度、校内研修を実施する。 ⑤ 体育の授業や特別活動、部活動などを通じて、基礎体力の向上に向けて計画的に取り組む。 ⑥ 教室・廊下・特別清掃区域の清掃を徹底し、日々、校内美化に努める。 ⑦ 避難訓練、救命講習などの体験的な訓練及び防災ブック「東京防災」、防災ノート、防災講演会など通して、自助・共助の精神を醸成し、地域社会のリーダーとして活躍できる人材を育成する。また、原則として1学年の1学期中に「東京マイ・タイムライン」を活用した指導を行う。	5 健康づくり等 【B】 コンディションングレポートは各学期はじめに活用促進期間を設定しているが、生徒の利用は少数にとどまっている。 「SOSの出し方」について4月当初に集会指導を実施した。 特別な支援を必要とする生徒に対して、適宜ケース会議等を実施して個別の支援を行った。全員面接は定期健康診断とともに実施することができた。 避難訓練を4回実施、防災講演会を実施した。 3月に東京都、八王子市、消防署、近隣自治会と連携した総合防災訓練を実施した。本校が避難所となっていることを考慮し、地域の方々とともに様々な訓練を行い、非常に得るものがあった。 【数値実績】 ア 学校評価の肯定的割合 ・「教育相談の環境整備」 生徒 87.5% [88.3%] 保護者 65.3% [63.6%]
6 特別活動・部活動 ① 合唱祭、文化祭、体育祭、球技大会の四大大行事を生徒主体で実施し、学校生活の充実を図る。 ② 「切替えと集中」により、限られた時間を有効に活用する姿勢を身に付けさせる。学業と部活動・学校行事の両立に向けた努力を継続させるための支援を全教員で行い、心身ともにたくましい人間を育成する。 【学校評価：学習と特別活動の両立(生徒)80% [67.5%]】 ③ <u>生徒の主体的活動を支援し、ホームルーム活動・学校行事・委員会活動・部活動等の活性化を図る。また、協働の大切さや仲間と助け合いながら事を成し遂げる喜びなどを経験させ、コミュニケーション能力の育成し、生徒に成就感・達成感を享受させる。</u> 【部活加入率 90%以上】(生徒) [90.8%]	6 特別活動・部活動 【A】 昨年度、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行してから、特別活動や部活動はコロナ以前の形に戻り、今年度は全ての教育活動で通常の形で実施することができた。 学校行事は生徒の実行委員会が中心となって実施できており、生徒のリーダーシップ育成に手ごたえを感じている。 部活動も活発化し、加入率も上昇、目標値を上回った。バトントワリング部、テニス部が関東大会に出場するなど実績も伴っている。 【数値実績】 ア 学校評価の肯定的割合 ・「学習と特活の両立（文武両道の実践）」 生徒 72.7% [67.5%] 保護者 81.8% [81.2%] イ 部活動加入率 92.0% [90.8%]

7 募集・広報活動 ① <u>中学生・保護者に本校の教育活動の周知のため、学校説明会、学校見学会、部活動体験、授業体験、出前授業、中学校訪問及び塾訪問等を積極的に実施し、募集・広報活動に努める。全教職員体制で積極的に広報活動を展開し、文化祭等の来場者数を増やし、応募倍率の向上を図る。</u> 【学校見学会・説明会参加人数 4500 名〔4331 名〕】 【推薦に基づく選抜 2.6 倍〔2.48 倍〕】 【学力検査に基づく選抜 1.5 倍〔1.42 倍〕】 ② <u>新ホームページの内容を充実させ、X（旧 Twitter）とともに情報発信を活性化させる。</u> 【HP 等更新 300 回以上〔434+99 回〕】 ③ 中学生部活動体験・高校授業体験、出前授業を積極的に推進し、本校の教育活動を周知に努める。 ④ 塾対象の説明会を周知し、参加者数の向上を図る。 【50 名〔41 名〕】 ⑦ 全員で積極的に広報活動を展開し、文化祭等の来場者数の増加を図る。 【4600 名〔4501 名〕】 ⑧ 学校説明会等の動画を公開し、説明会に参加できなかった中学生・保護者の便を図る。 ⑨	7 募集・広報活動 【B】 学校見学会、学校説明会、部活動体験、授業体験、中学校訪問、出前授業等、あらゆる機会をとらえて積極的に広報活動を展開した。さらには文化祭での学校説明ブースの設置、Xに加えて公式インスタグラムを設置し情報を公開した。 学校見学会・説明会の参加者は昨年度に比較して微減、応募倍率も昨年度に下回る結果となった。東京都全体、特に多摩地域での私立高校志向が顕著であり、次年度以降の工夫が必要である。 【数値実績】 ア 学校見学会・学校説明会参加者 4097 人〔4331 人〕 イ 推薦に基づく選抜募集倍率 1.80 倍〔2.48 倍〕 ウ 学力検査に基づく選抜応募倍率 1.17 倍〔1.42 倍〕 エ HP 等更新回数 346+80 回〔434+99 回〕 オ 塾対象説明会参加者 23 名〔41 名〕 カ 文化祭来場者 約 3500 人〔4501 人〕 （台風のため、一般公開 1 日のみ）
--	--